

第1回
新型コロナウイルス感染症の
感染動向の推移を評価する打合せ会
専門家の意見

新型コロナウイルス感染症の感染動向の推移を 評価する打ち合わせ会における専門家の意見①

千葉県内では、新型コロナウイルス感染症患者が増加している状態。

特に、東葛南部・東葛北部・千葉市での患者数が増加しています。人口10万人あたりの患者数で補正すると、東葛南部はステージ4相当、東葛北部・千葉市・香取海匝はステージ3相当になっている。

東京都内の患者数、人の動きも評価すると、新型コロナウイルス感染症患者の増加は続くことを想定して、生活行動を変容させる必要があります。

変異株（デルタ株 インド株ともいわれています）が陽性となる割合は20%を超えており、従来のものより、感染性が高く、重症化するリスクを伴う。

65歳以上の高齢者のワクチン2回接種率は40%を超えた。1回だけでも接種した割合は75%を超えている。

この効果が現れているのか、60歳以上の新型コロナウイルス感染症患者割合は約11%、ワクチン接種が始まる3月は37%前後でしたので、急速に減少している。

この結果、患者の大部分は、60歳未満となっており、できるだけ多くの若い世代の方々のワクチン接種が進むことを期待しています。

若い世代は、重症化するリスクが低いと言われてきましたが、このところの傾向は違っています。若い世代でも入院する割合が増加しています。また、新型コロナウイルス感染症から回復しても、後遺症で苦労される方もたくさんいます。

まずは、新型コロナウイルス感染症に感染しないこと、感染リスクをとまなう行動を回避することが大事です。

新型コロナウイルス感染症の感染動向の推移を 評価する打ち合わせ会における専門家の意見②

現状の評価と今後の見通し

- 東京都内の感染者数の増加に合わせて、千葉県内の感染者数も大きく増加している。
- 東葛地区、香取海匝地域の患者数が急増している。
- 新規感染者の9割近くが、60歳未満の年代であり、ワクチン接種が進んだ高齢者の感染者が減り、ワクチン未接種の若年者を中心とした感染拡大が起きている。
- 7月14日時点での確保病床の占有率は4割弱であるが、このペースで増加すると、2週間後には6割を超え、通常医療が逼迫する可能性が高い。
- 重症患者が増えるまでには、1-2週間程度のタイムラグがあるため、2週間後には重症患者数も増えることが予想される。
- 療養ホテルのキャパシティの限界が迫っており、ホテル療養を希望しても、すぐには利用できない状態になりつつある。
- 千葉県内においても、感染力が強いとされるデルタ株の検出割合が増えてきており、今後置き変わる可能性が高い。

必要な対策

- 入院の必要性をしっかりと判断し、確保している病床を有効に活用する。
- 特に重症者については、広域搬送を積極的に利用し、全県の病院で対応を行う。
- 更に患者数が増えた場合には、在宅療養者が増えると思われるため、在宅療養患者のケアを行う仕組みを整える。
- 職場、学校、飲食の場などでの若年者の感染が増えているため、十分な感染対策を行い、マスクを着用せずに近距離で会話をする場面を徹底的に避けることが必要。
- 重症者のピークは1-2週間ずれることを念頭において、感染者数を減らすための対策は、できるだけ速やかに実施する。
- 高齢者だけではなく、若い世代にワクチン接種を行うことが、流行拡大抑制に有効と考えられるため、可能な限り速やかにワクチン接種を進める。